



南阿蘇村には「大量生産じやない物がある」

料理はオーナー自らが包丁を振るうので人気です。二百年以上続いている温泉が強みで、この大きなコンセプトがあるためプレることは多い。

「今は踏ん張り時なのでほぼ毎日仕事ですが、瞬間瞬間に眺められる景色はながれます」と謙二さん。

「南阿蘇村はひとつとして同じ景色はない」。そう話す謙二さんの誇りと信念を持った姿が、山々に優しく包まれます。



代々湯治場として受け継がれてきた、南阿蘇村のシンボル的存在の地獄温泉

阿蘇山の麓に併む地獄温泉は古く文化元年（1804年）に発見されたと言われ、二百年以上も湯治場として多くの人々を癒し続けてきました。

謙二さんは南阿蘇村出身で、小学校から大学、留学などで外の世界を多く経験。両親が地獄温泉を継ぐ話になった時、料理に苦労していた父の姿を見て、長男の誠さんはフレンチ、三男の進さんは日本料理をそれぞれ修業し、謙二さんも28年前に南阿蘇村へ戻って来ます。

2016年4月熊本地震、6月の大震による土砂災害による甚大な被害

土砂が客室や温泉など施設を埋め尽くす中、奇跡的に湧いているすずめの湯を見て「すずめの湯が湧いていたので諦めず大丈夫だと思った」と希望があったという謙二さん。すずめの湯は「神様がここだけは入つていよいよ用意してくれた場所」。そのままの温度で入れる奇跡的なお風呂である。

南阿蘇村の観光協会の会長になって2年目に起きた熊本地震、地獄温泉だけではなく、南阿蘇エリア全体で盛り上げていこうと決意をします。震災の後に地元の人たちとたくさん出会うようになり、魅力的な人が多いと改めて知る謙二さん。

2019年4月に地獄温泉のシンボルである「すずめの湯」の復活から営業を開始します。その後、「元の湯」と「たまごの湯」も復活し、レストラン、宿泊棟など徐々に営業を再開し、地獄温泉の復活を心待ちにしていたファンの人たちが多くつめかけました。

地獄温泉を拠点にした滞在型の観光施設に

今までのように南阿蘇村にパッと来て「観光」していくのではなく、滞在時間を延ばして全体の魅力をもつと知つてほしい。地獄温泉を選んでいただいたお客様には湯治の場としてここでゆったりとした時間を過ごしてほしい。

ここは水が違う、空気が違う。阿蘇の地で育った食材を宿の料理として提供する。観光と地域を結び相乗効果させていくために、阿蘇に住んでいる私たちが「ここにあるもの」を活かし、点と点から繋げ、そして面へとつなげていく必要がある」。

「地獄温泉はその役目を果たしていきたい」。言葉ひとつひとつに謙二さんの熱い想いを感じます。

3兄弟で力を合わせてやっていけた